

令和3年度 NO. 2

コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

R 3. 8. 3 1

(事務局：国見町教育委員会学校教育課 ☎585-2892)

第2回 コミュニティ・スクール委員会 & 地域学校協働本部推進委員会

7月8日に国見小学校で開催された第2回委員会で委員が授業を参観しました。その時の感想を紹介します。

<授業参観の感想>

子どもたちが一生懸命に学習に取り組んでいてうれしい。先生方も一生懸命に指導していた。

子どもたちは楽しく学んでいて、教師が一人ひとりじっくり見ながら指導しているのが印象的だった。

移動の時、廊下で、6年生のほうから「こんにちは」と気持ちの良いあいさつをしてくれた。

1年生が落ち着いてすわって国語や音楽の授業を受けていた。幼稚園を卒園して4か月が経ったが、成長の大きさを感じた。

6年生の授業に県北中学校の生徒が参加していたが、国見学園の小・中のつながりを感じた。6年生は中学生の話を集中して聞いていた。中学生も堂々と説明し、受け答えもしっかりとしていた。※中学生は当日職場体験として小学校を訪問。

外に鉢植えの花が元気に咲いていた。子どもたちがしっかりと育てていることがわかり心強く感じた。

授業参観の後、「郷土愛の育成」に関して話し合いを「子どもたちに郷土愛をはぐくむために、CS委員会としてどのような活動・支援をすればよいか」をテーマに行いました。話し合いは、「地域の人材の活用への委員会の取り組み」と「子どもと地域の人々とのあいさつ推進への委員会の取り組み」を2つの柱に行いました。

裏面は、熟議による話し合いで出た意見と宮城教育大学特任教授野澤令照先生の指導助言です。



<熟議による話し合い R3. 7. 8>

※「熟議」とは
学校・保護者・地域などの多くの当事者が「熟慮」と「議論」を重ねながら、共通認識・課題解決をしていくことです。コミュニティ・スクールでよく用いられる話し合いの手段です。

＜熟議から ～主な意見～＞

地域の人材の活用へのCS委員会の取り組み・支援

- 地域の人材とボランティアを確保するため募集を発信する。
- 地域の人材リストを作成する。
- 職場体験を受け入れてくれるよう事業所へ呼びかけをする。事業者側のメリットも考慮する。
- 各機関の協力を得ながら、地域の資源の見直しを図る。



子どもと地域のあいさつの推進へのCS委員会の取り組み・支援

- CS委員会が町全体に呼びかけ、町全体があいさつを意識する雰囲気づくりをする。
- あいさつ運動は登下校の時間に行うとよい。
- 不審者のこともあり、誰にでもあいさつをすることは躊躇すると思う。せめて、地区内では、みんなが顔見知りとなってあいさつできるような交流を図りたい。
- あいさつが飛び交う町には不審者がいなくなるという。「あいさつの飛び交う町づくり」を進めてほしい。

指導助言（要旨） 宮城教育大学特任教授 野澤令照 先生

地域の人材の活用・確保への支援は、町のネットワークを生かしながら取り組むとよい。職場体験の受け入れは、事業所側にも若手育成の面などでメリットがある。

あいさつ運動の推進は、大人の姿が子どもにそのまま反映していくので、まずは大人が模範を示すことが大切である。

今回のテーマである郷土愛の育成は国見学園アクティブプランの4つの柱の中で一番難しい。各学校でも取り組んでいるが、学校だけでなく、むしろ地域の方々が郷土愛を子どもに育むためにどんなことをやれるか智慧を出し、一生懸命に取り組んでいる姿を見せることも、子どもの郷土愛育成につながっていく。

CS委員会の活動は、「楽しい」をキーワードにして取り組んでほしい。

今回の熟議による話し合いと指導助言を踏まえて、今後CS委員会は次の2点に取り組んでいきます。

CS委員会として取り組んでいくこと

- ① 人材バンクの「見える化」を図り、さらに人材についての情報を蓄積し、活用しやすいようにします。
- ② 「あいさつ運動」を企画していきたいと思います。